

## 歯科用コーンビーム CT の基礎知識 -撮影原理と基本的な画像解剖-



泉 雅浩  
附属病院画像診断科 診療科教授

近年、歯科用コーンビーム（CBCT）が広く普及し、歯・顎顔面領域の画像診断になくはならない存在になってきました。日本歯科放射線学会のCBCTのガイドラインによると、撮影時は以下の点について考慮し実施することが望ましいとされています。

①CBCTを適用すべき疾患かどうか、②撮影回転角度、③観察領域（Field of View; FOV）、④コーン角、⑤被ばく軽減のための撮影条件設定、⑥短時間での撮影、⑦感染対策ところが、これらの項目には専門的な知識が要求されるものが含まれており、特に一般歯科医院においてはガイドラインの遵守を困難にさせています。

本講演では、ガイドラインの理解に役立つと考えられる撮影原理を簡単に解説させていただきます。また、CBCTの画像診断に必要な基本的な画像解剖についても説明させていただきます。本講演が、CBCTのさらなる有効活用の一助となれば幸いです。

### 【略歴】

- 1989年3月 長崎大学歯学部卒業
- 1989年4月 長崎大学歯学部歯科放射線学講座 助教
- 1997年2月 長崎大学歯学部歯科放射線学講座 講師
- 2001年1月 愛知学院大学歯学部歯科放射線学講座 講師
- 2002年2月 愛知学院大学歯学部歯科放射線学講座 准教授
- 2012年6月 テキサス大学健康科学センター 在外研究員（2013年5月まで）  
アメリカ退役軍人管理局研究部門 研究員（2013年5月まで）
- 2017年4月 神奈川歯科大学歯学部画像診断学分野 准教授
- 2021年10月 神奈川歯科大学附属病院 画像診断科 診療科教授  
現在に至る

### \*主な所属学会等

特定非営利活動法人 日本歯科放射線学会 専門医・指導医